
デジタル田園都市国家構想の実現に向けた
第3期 広尾町総合戦略
(令和5～9年度)

令和5年11月
北海道広尾町

目 次

第1章 総 論.....	1
(1)策定の趣旨.....	1
(2)総合戦略の位置付け.....	1
(3)計画期間.....	1
(4)推進体制.....	2
(5)「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の概要.....	3
第2章 基本方針.....	4
(1)広尾町の現況.....	4
(2)地域ビジョン(地域が目指すべき理想像).....	6
(3)総合戦略の政策体系.....	7
第3章 施策の目標と基本的方向.....	8
政策分野1:海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出.....	8
1. 施策の基本的方向性.....	8
2. 基本目標(数値目標).....	8
3. 具体的な施策.....	9
4. 関連するSDGsの目標.....	11
政策分野2:海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待っています.....	12
1. 施策の基本的方向性.....	12
2. 基本目標(数値目標).....	12
3. 具体的な施策.....	12
4. 関連するSDGsの目標.....	14
政策分野3:サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援.....	15
1. 施策の基本的方向性.....	15
2. 基本目標(数値目標).....	15
3. 具体的な施策.....	15
4. 関連するSDGsの目標.....	16
政策分野4:まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する.....	17
1. 施策の基本的方向性.....	17
2. 基本目標(数値目標).....	17
3. 具体的な施策.....	18
4. 関連するSDGsの目標.....	22
第4章 主な事業・取組の整理.....	23
政策分野1:海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出.....	23
政策分野2:海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待っています.....	25
政策分野3:サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援.....	27
政策分野4:まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する.....	29

第1章 総論

(1) 策定の趣旨

急速に進行する人口減少・少子高齢化に対し、地域の活力を創生していくため、平成26年11月、「まち・ひと・しごと創生法」が成立しました。これらの動きを踏まえ、本町においても平成27年度に第1期となる「広尾町総合戦略」、令和元年度に「第2期広尾町総合戦略」を策定し、社会課題の解決に向け、地方創生の取組を進めてきました。

第1期及び第2期総合戦略の推進により、十勝港の取扱貨物量の増加や新たな子育て施策の実施など一定の成果が見られたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響等もあり、数値目標の多くは達成状況が芳しくなく、人口減少に歯止めがかからない状況が続いています。本町の現状を直視し、引き続き各般の取組を継続していくことが求められています。

一方、国においてはデジタル技術の活用を地方の社会課題解決の鍵として、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現を図るため、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が令和4年12月に閣議決定されました。本町においても、これまでの第1期及び第2期総合戦略の取組を、今後はデジタルの力を活用しながら加速化・深化させていくことが重要です。

以上を勘案し、4つの政策分野ごとに実施すべき取組を体系的に整理し、本町の強みや特徴を生かした今後5か年の地方創生の指針となる、「デジタル田園都市国家構想の実現に向けた第3期広尾町総合戦略」を策定します。

(2) 総合戦略の位置付け

- 本戦略は「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づき、策定します。
- 本戦略は、国及び北海道の「総合戦略」の内容を踏まえて策定します。
- 本戦略は、本町の最上位計画である「第6次広尾町まちづくり推進総合計画（令和3～12年）」との整合を図るとともに、人口減少・少子高齢化への対応に関する個別計画として策定します。

(3) 計画期間

本戦略の計画期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

(4) 推進体制

「デジタル田園都市国家構想」が、地域の個性を活かしながらデジタルの力によって地方創生の取組を加速化・深化させることを目的としていることを踏まえ、本戦略の取組の推進に当たっては、庁内の各部局が連携して総合的に対応します。

また、4つの政策分野ごとに掲げる基本目標及び具体的な施策について、重要業績評価指標（KPI）を設定し、毎年これらの達成状況の確認・検証を行います。町民・有識者等で組織する「広尾町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進委員会」における外部評価により取組の効果を検証することで、PDCAサイクルによる進捗管理と各取組の継続的な改善を行います。

(5)「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の概要

【国における施策の方向】

＜デジタルの力を活用して地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・深化＞

デジタルの力を活用した地方の社会課題解決	1 地方に仕事をつくる スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業DX(キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等)、スマート農林水産業・食品産業、観光DX、地方大学を核としたイノベーション創出 等
	2 人の流れをつくる 「転職なき移住」の推進、オンライン関係人口の創出・拡大、二地域居住等の推進、地方大学・高校の魅力向上、女性や若者に選ばれる地域づくり 等
	3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる 結婚・出産・子育ての支援、仕事と子育ての両立など子育てしやすい環境づくり、こども政策におけるDX等のデジタル技術を活用した地域の様々な取組の推進 等
	4 魅力的な地域をつくる 教育DX、医療・介護分野におけるDX、地域交通・インフラ・物流DX、まちづくり、文化・スポーツ、防災・減災、国土強靱化の強化等、地域コミュニティ機能の維持・強化 等

地方のデジタル実装を下支え

＜デジタル実装の前提となる取組を国が強力に推進＞

デジタル実装の基礎条件整備	1 デジタル基盤の整備 デジタルインフラの整備、マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大、データ連携基盤の構築、エネルギーインフラのデジタル化 等
	2 デジタル人材の育成・確保 デジタル人材育成プラットフォームの構築、職業訓練のデジタル分野の重点化、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成、デジタル人材の地域への還流促進、助成デジタル人材の育成・確保 等
	3 誰一人取り残されないための取組 デジタル推進委員の展開、デジタル共生社会の実現、経済的事情等に基づくデジタルデバイドの是正、利用者視点でのサービスデザイン体制の確立 等

第2章 基本方針

(1) 広尾町の現況

① 地域経済の現状

▶ 第一次産業

漁業に関しては、十勝港において国内トップクラスの水揚げを誇るシシャモをはじめ、秋サケ、毛ガニ、コンブ、ツブガイといった北海道を代表する海の幸が水揚げされています。また、資源安定のために、サケマスふ化事業やシシャモの資源調査、マツカワの種苗放流などを行い、漁獲量の安定供給に努めていますが、近年は気象変動の影響による海水温の上昇や回遊の変化、赤潮の影響など、期待する漁獲量を確保することができず、先行きも不透明な状況にあります。各漁業者においては、後継者など担い手の確保も大きな課題となっています。

農業については、全道的に農家人口や農家戸数が減少傾向にあります。慢性的な労働力不足が顕著となり、農作業の省力化・効率化や担い手の確保が喫緊の課題となっています。加えて、新型コロナ禍やウクライナ情勢などの影響により食料生産に欠かせない燃油や肥料、飼料など生産資材の価格が高騰を続け、生乳の生産抑制、牛の販売価格下落なども相まって、国内の農業全体は過去に類を見ないほどの危機に直面しています。本町の農業は、酪農専業の経営体を中心となっていますが、労働力不足の解消や担い手確保などの課題に加え、家畜伝染病の蔓延が酪農経営に大きな影響を及ぼしている状況にあります。

林業については、道内の森林の約3割を占める人工林が木材利用に適した伐期を迎えており、苗木生産や造林をはじめ、素材生産、製材加工、住宅建築に至るまで、林業・木材産業の活性化に期待が高まっています。平成31年には「森林環境税」及び「森林環境譲与税」が創設され、令和6年度から森林環境税の課税が開始されることから、この財源を活用し、地球温暖化防止など公益的機能を持つ森林を今後も適切に守り育てていくことが求められています。本町では全体面積の約8割を森林が占め、豊富な森林資源に恵まれています。高齢化や人口減少の進行により、林業や木材産業に関わる労働力不足が課題となっており、従事者の確保と併せて作業の省力化・効率化にも取り組む必要があります。

▶ 第二次産業

町の重要な産業を担うのが、ほかの町にはない本町の強みである重要港湾十勝港です。釧路税関支署十勝出張所が発表した、令和4年の十勝港の貿易額（速報値）は、276億6,400万円となり、12年連続で100億円を突破、また開港以来初の200億円を超える実績となりました。

した。主な輸入品目でみると、米国やブラジルからの飼料用トウモロコシが最も多くなっています。中国や米国からの植物性油かすなどの飼料類に加え、石炭も引き続き安定的に輸入されています。また、国外への輸出に関しては令和3年において5年ぶりに取扱実績がありました。令和4年は取り扱いが無く、今後の輸出品目の確保が課題となっています。

製造業については、十勝港工業団地を中心に飼料工場や水産加工場など港湾に関連する企業が進出しています。経済センサス-活動調査における本町の製造品出荷額等は、平成28年は11億7,200万円でしたが、令和3年には12億3,300万円となっており、堅調に推移しています。

▶第三次産業

本町における令和3年度の小売業の状況は、商店数が74店、従業員数が358人、年間商品販売額が65億7,700万円となっています。新型コロナ禍の影響による飲食業を中心とした消費需要の低迷など、今後、人口減少がさらに進むなかで、商圈が町内に限られがちな商業は発展が難しい状況に置かれています。

《小売業の商店数・従業員数・年間商品販売額の推移》

(単位：店/人/百万円)

年度	項目	商店数	従業員数	年間商品販売額
令和3年度	小売業	74	358	6,578
平成28年度	小売業	78	332	6,023
平成24年度	小売業	81	293	4,538

資料：平成24年、平成28年、令和3年経済センサス-活動調査

②人口減少が町民生活に与える影響

人口減少は、町民の生活に直接影響を与える課題です。町内会などの地域コミュニティ機能の喪失や、中長期的には、集落が維持できなくなることも指摘されているほか、子どもの教育や遊び場の確保、買い物や交通の維持、医療や福祉の需給バランスなど、地域社会における様々な分野に影響を及ぼします。

また、十勝管内独自の課題として、帯広市への人口集中をどう考えるかという点が挙げられます。帯広市とその周辺町村がいわゆる「ダム」機能を発揮しており、管内全体では道内他地域と比べて人口減少幅も少なく安定的な人口構成を有しています。一方で、このことが管内町村間での人口シェアの奪い合いにつながりかねないため、現状を注視しつつも、それぞれの強みを生かした施策の展開が求められています。

(2) 地域ビジョン(地域が目指すべき理想像)

本町の地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）を第6次広尾町まちづくり推進総合計画におけるまちのめざす将来像「海・山・川が織りなす、希望が灯るサンタランドひろお」とします。この実現に向けて第2期総合戦略の基本理念「ひとを育て、しごとを創り、多彩な地域交流でまちの魅力を高め発信する」を継承し、各政策分野や具体施策を推進していきます。

地域ビジョンを実現し、広尾町が住みやすく、魅力的で活気あふれるまちとして続けていくためには、町民がまちの理想像を共有し、それぞれが役割を果たしながら連携・協力してまちづくりを進めていくことが必要です。基本理念に基づき、デジタル技術の活用、脱炭素など社会の変化に適切に対応した取組を取り入れながら、住民が主役となり活躍できる持続可能なまちづくりを進めていきます。

【地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）】

**海・山・川が織りなす、
希望が灯るサンタランド・ひろお**

【「デジタル田園都市国家構想の実現に向けた広尾町総合戦略」の基本理念】

**ひとを育て、しごとを創り、
多彩な地域交流でまちの魅力を高め発信する**

(3) 総合戦略の政策体系

《地域ビジョン》

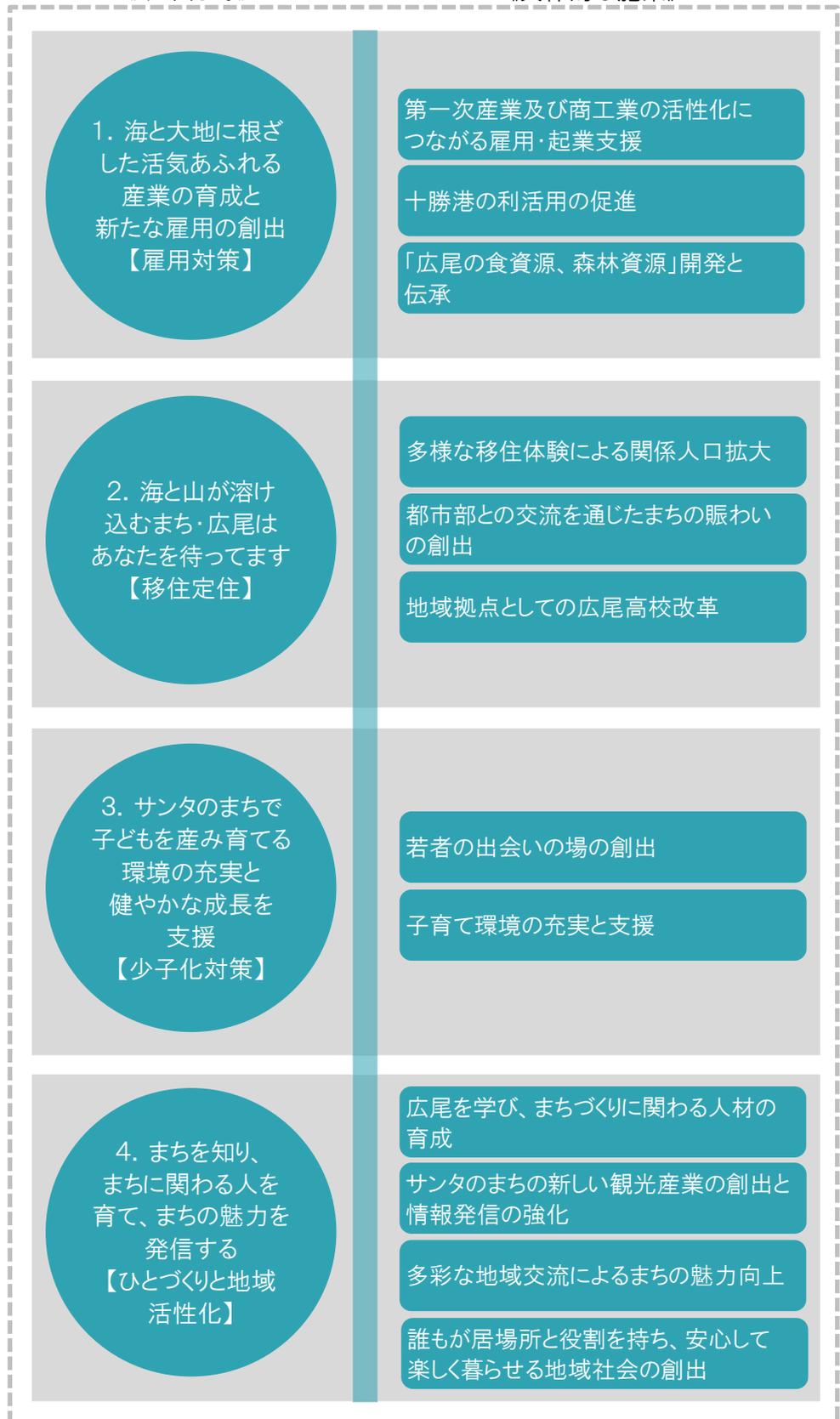
海・山・川が織りなす、希望が灯る
 サンタランド・ひろお

《基本理念》

ひとを育て、しごとを創り、多彩な
 地域交流でまちの魅力を高め発信する

《政策分野》

《具体的な施策》



第3章 施策の目標と基本的方向

本戦略の基本目標は「第2期広尾町総合戦略」の取組状況を踏まえるとともに、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案し、次の4つの政策分野ごとに目標を設定します。また、SDGs（持続可能な開発目標）と各政策分野との関係を明記することで、SDGsへの貢献を通じて持続可能なまちづくりを進める機運の醸成を図ります。

政策分野1：海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出

雇用対策

■ 1. 施策の基本的方向性 ■

町に自分が働きたいと思える仕事があることが、この町に住み続けることの基本になります。海と山がともにある本町の強みを生かした「しごとづくり」をめざします。

本町の強みである「海と山の資源を生かす」ことにより、各産業分野において新たな「しごと」「産業」を創出し、各産業に活力を与えることをめざします。主要産業の漁業・農林業に対しては、新たな担い手の確保や新規就業者支援の施策を進めるとともに、ICT、AIなどデジタル技術の導入に向けた支援・検討を進めます。

重要港湾十勝港を有する強みを生かし、港湾関連企業の誘致に努めるとともに、定期航路の開設に取り組みます。

豊かな食資源・森林資源を最大限に活用するため、地域ブランドの確立や第6次産業の推進などによる高付加価値化に加え、食文化の伝承にも取り組みます。

■ 2. 基本目標(数値目標) ■

○新規起業件数を5年間で10件増やします。

(参考：R2(2020)年～R4(2022)年の3年間の実績 5件)

○まちの雇用創出に貢献する企業・事業所を5年間で10社増やします。

(参考：R2(2020)年～R4(2022)年の3年間の実績 3社)

■ ■ 3. 具体的な施策 ■ ■

① 第一次産業及び商工業の活性化につながる雇用・起業支援

十勝港では、シシャモや秋サケ、毛ガニ、コンブ、ツブガイといった北海道を代表する海の幸が水揚げされていますが、近年気象変動などの影響により一部の魚種で資源の減少がみられることから、新たな栽培漁業を推進するとともに雇用を創出します。

第一次産業に従事する担い手の育成・確保を図るとともに、後継者のいない商工業などの事業継承を図るなど、働き手を確保します。また、地域に根付く新しい事業を創るとともに、新たな起業を支援し雇用を創出します。

産業分野におけるバイオマス発電や、ICT、AIなどデジタル技術の導入に向けた支援・検討を進め、未利用資源の有効活用と作業の省力化・効率化を図ることにより、持続可能な産業を育成します。

【主な事業・取組】 ※「太字」はデジタルを活用した取組

1. **新たな栽培漁業の推進**
2. **家畜ふん尿を再生可能エネルギーとして活用する取組の推進**
3. **担い手（経営者、従業員）育成確保事業（事業継承）**
4. **多様な新規就農を支援する体制の構築**
5. **高齢者、障がい者、外国人など多様な人材を労働力として受け入れる取組**
6. **地域に根付く、新たな事業、稼げる事業の創出**

○ 7. 産業分野への ICT、AI などデジタル技術の導入

8. **木育事業「町民の森づくり」プロジェクト**

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
起業家等支援事業を通じた起業による新規雇用者数	2人(R4)	→	延べ15人
産業分野におけるICT、AIなどデジタル技術の導入件数	1件(R4)	→	延べ3件

②十勝港の利活用の促進

重要港湾十勝港は、十勝の海の玄関口に位置し、十勝圏の「物流ターミナル」・農業を支える「アグリポート」としての役割を担っています。十勝港を有する強みを生かし、飼料や化学肥料の輸入、農産品の移出を通じて産業を発展させることは、本町の「しごとづくり」における重要な施策の一つです。

引き続き、港湾関連企業の誘致に努めるとともに、定期航路の開設に努めます。

【主な事業・取組】

1. 十勝港への企業の誘致
2. 定期航路開設に向けた取組

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
港の利用拡大(企業進出・事業拡大)件数	0件(R4)	→	延べ1件
十勝港の取扱貨物量(年間)	155.7 万トン(R4)	→	173.0 万トン
定期航路の開設	-	→	延べ1航路

③「広尾の食資源、森林資源」開発と伝承

海産物や農畜産物を原料とした新たな特産品を開発し、商品化・ブランド化を図ることにより、食資源の豊富さや質の高さをアピールするとともに、広尾町の食文化（魚を使った漬物、保存食など）を次世代に伝承することで、地域の食文化を守り、広尾町の食の魅力を町内外に伝え広めます。

また、良質な生乳を原料とした広尾産オリジナル乳製品の加工・販売など、第6次産業の起業・設立に向けた支援や町産木材のブランド化など、付加価値の高い商品づくりと販路拡大・雇用創出をめざします。

【主な事業・取組】

1. 広尾の食材を生かした第6次産業の推進
2. 広尾の食文化伝承事業
3. 地域ブランドの確立に向けた取組
4. 地域材のブランド化による林業の成長産業化

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
地域ブランド、新商品開発件数	0件(R4)	→	延べ5件
第6次産業の会社設立	0社(R4)	→	延べ1社

■ ■ 4. 関連するSDGsの目標 ■ ■



■ 1. 施策の基本的方向性 ■

継続的な生産年齢人口の確保が、将来にわたって町が発展するための基本になります。
多様な移住体験をきっかけに、広尾ファンを全国につくり、将来の移住定住につなげます。

海と山を有する豊かな自然環境を生かし、大自然に囲まれて暮らす心地よさを満喫できる本町の魅力を広く発信するため、関係人口の拡大に取り組みます。移住体験と産業・自然体験を組み合わせた総合的な受入体制の構築や、都市部との交流を通じて広尾ファンを全国に増やすことで、将来的な移住定住の促進につなげます。

生産年齢人口の確保のためには、就職などを機とした人の流出の抑制や、地域を支える人材を育成することも求められます。地域活性化活動の核となっている広尾高校についても、その魅力を高め、地域と連携した特色ある高校づくりを進めるほか、広尾高校におけるコミュニティ・スクールの推進など地域ぐるみで広尾高校を応援する体制を整備します。

■ 2. 基本目標(数値目標) ■

○起業や転職、Uターンによる移住者数を5年間で80人にします。

(参考:R2(2020)年~R4(2022)年の3年間の実績 41人)

○令和9年度の人口の社会減をマイナス80人に抑制します。

(参考:R2(2020)年~R4(2022)年の3年間の平均 マイナス80.3人)

■ 3. 具体的な施策 ■

①多様な移住体験による関係人口拡大

移住を検討する働く世代や都市部の若者などを対象とした移住体験住宅の運営や「ふるさとワーキングホリデー」の実施など、四季折々の北海道・広尾を体感できる、移住体験と産業・自然体験を組み合わせた総合的な受入体制を整え、関係人口の拡大を図ります。

オンラインによる相談対応や移住イベントへの参加・企画、ワーケーションといった新しい働き方など、時流に合わせたデジタル技術の活用やメディア展開の検討を進め、地方移住への需要の高まりを踏まえた情報発信・利用方策の充実を図ります。

【主な事業・取組】 ※「太字」はデジタルを活用した取組

1. 多様な移住体験の受入体制構築
- 2. 移住相談・情報発信の充実
- 3. ワークーションなど新しい働き方の推進

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
移住体験延べ滞在日数(年間)	284 日(R4)	→	350 日
労働を伴う移住体験人数	5 人(R4)	→	延べ 20 人
テレワークやワークーションで活用できる施設数	2 か所(R4)	→	延べ 4 か所

②都市部との交流を通じたまちの賑わいの創出

「広尾町ホームステイ受入協議会」による農山漁村ホームステイ事業を継続し、東京都荒川区の小学生や関東・関西の高校の修学旅行生を受け入れる取組を推進します。都市部との人的交流を行うことで、まちの魅力の再認識や今まで気づかなかった資源の掘り起こしを図ります。大都市圏における町産品の販売や、学校給食への食材提供による事後交流を行い、中長期にわたり広尾ファンを増やすことで関係人口の拡大を図り、まちの賑わいを創出することをめざします。

【主な事業・取組】

1. 東京都荒川区との「子ども農山漁村」交流事業推進
2. 東京都荒川区の小中学校への給食食材提供事業推進

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
農山漁村ホームステイ事業への参加者数	受入れ家庭 :延べ 76 戸 子ども :延べ 311 人 (R1)※1	→	受入れ家庭 :延べ 66 戸 子ども :延べ 260人 ※2

※1 令和2～4年度は新型コロナウイルス感染拡大により受入を中止したため、令和元年度を基準とする。

※2 修学旅行生の受入について、実施主体は令和6年度から一部受入再開する方針。

③地域拠点としての広尾高校改革

広尾高校を地域コミュニティの中核として存続させるためには、その魅力を高め、地域と連携した特色ある高校づくりを進めることが重要です。広尾高校と地元企業との協調が図れるよう結びつきを強化するほか、部活動の専門指導者の招聘や広尾ならではの新たな部活動・文化活動の創設支援を行うなど、広尾高校の魅力を高めるとともに、広尾高校へ進学することのメリットを町内外にアピールすることで、入学者数の確保を図ります。

また、防災教育の充実や広尾高校におけるコミュニティ・スクールの推進など、地域ぐるみで広尾高校を応援する体制を整備します。

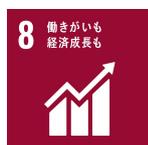
【主な事業・取組】

1. 広尾高校におけるコミュニティ・スクールの推進
2. 地元企業と広尾高校の結びつきの強化
3. 新しい文化活動の創設
4. 広尾高校の魅力のアピール（サポート13）
5. 防災教育の充実

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
広尾高校を含めた広尾っ子応援団本部事業の拡充	- (R4)	→	拡充済
広尾高校入学者数	32人(R4)	→	41人

■ 4. 関連するSDGsの目標 ■



政策分野3: サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援

少子化対策

■ 1. 施策の基本的方向性 ■

子どもの健やかな成長を、地域の子育て支援拠点を核にまちぐるみで支え合うことをめざし、「まちの未来を想う子どもたち」を皆で育てます。

子どもの健やかな成長をまちぐるみで支え合うことをめざし、保育園や子育て支援センターを拠点とした子育て支援を充実させ、子どもを安心して産み育てる環境を整備し、子育て中の保護者の負担軽減を図ることにより、少子化の流れを緩和します。

■ 2. 基本目標(数値目標) ■

○令和9年度の年間出生数を35人以上とします。
(参考:R2(2020)年~R4(2022)年の3年間の平均 27人)

■ 3. 具体的な施策 ■

①若者の出会いの場創出

「広尾町出会いの場創出事業」を町内産業・経済団体と協力して推進することにより、独身者の婚姻を促進し、その後の町への定住促進を図ります。また、まちづくり活動を通じて異業種の男女が信頼関係を築き、交際・婚姻へと発展していくことをねらいとした事業を企画・実施します。

【主な事業・取組】

1. 出会いの場創出事業の推進
2. 「まちづくり」×「婚活」事業

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
結婚相談所登録者数	5人(R4)	→	20人
年間婚姻数(広尾町に婚姻届を提出した組数)	23組(R4)	→	24組(5年平均)
まちづくり事業の開催回数	1回(R4)	→	延べ10回

②子育て環境の充実と支援

子育て支援の拠点施設である保育園や子育て支援センターなどに従事する保育士や子育て支援員の人材を確保するとともに、令和4年度に開設したファミリーサポートセンターの事業定着を図るなど、地域ぐるみで子育てを支える体制を整備することにより、働きながら安心して子育てできる環境を整えます。

また、本町は出産施設が遠方にあり産前産後の相談体制が不十分な環境にある中で、妊産婦に対する支援体制を整え、産前産後を通して母子ともに安心して子育てできる環境づくりをめざします。

さらに、幼児や児童の子育てに関わる経済的な支援を継続して実施します。

【主な事業・取組】 ※「太字」はデジタルを活用した取組

1. 子育て応援ボランティアの組織育成

○2. 育児サポート体制の充実

○3. 保育園機能の充実

4. 妊産婦支援の充実
5. 乳幼児等医療費助成事業
6. 子育て世帯支援事業
7. ひとり親家族支援事業

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
子育てボランティアの人数	8人(R4)	→	15人

■ ■ 4. 関連するSDGsの目標 ■ ■



政策分野4:まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する

ひとづくりと地域活性化

■ 1. 施策の基本的方向性 ■

まちづくりはひとづくりから。町民参加を基本に各々の持つ個性や考えを尊重しながら、まちづくりのアイデアを出し合って実現に向けて取り組みます。

また、デジタルの力を有効活用し、地域の個性を活かしつつ、魅力あふれる地域づくりを推進します。

まちの未来を切り開く人材を育成するため、「まちづくり町民みらい会議」の開催や「まちを学ぶ」講座の開設、「広尾町検定」の導入など、子どもから高齢者までがまちの現状を学び、将来のまちのあるべき姿について主体的に考え、アイデアを出し合う取組を複合的に実施します。

観光振興については、長年取り組んできた「サンタランド」のまちづくりを核とし、豊かな自然を生かした体験型観光を充実させるなど、まちの観光資源に磨きをかけます。これらまちの魅力を最大限にアピールするため、「町民の力」を生かしながら情報発信力の強化に取り組みます。

地域交通の利便性を確保するとともに、誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる環境を整えることにより、安心して楽しく暮らせる地域社会の創出を目指します。脱炭素化社会の実現や急速に進むデジタル化など、社会の変化に積極的に対応し、生活の質を高めることで、持続可能な魅力ある地域を創ります。

■ 2. 基本目標(数値目標) ■

○令和9年度の大丸山森林公園への来場者数を年間 40,000 人にします。

(参考:R2(2020)年~R4(2022)年の3年間の平均 21,736人)
※新型コロナウイルス感染拡大の影響で入込減少。R4実績 31,974人

■ ■ 3. 具体的な施策 ■ ■

① 広尾を学び、まちづくりに関わる人材の育成

小学生から高齢者までの幅広い年代の町民が、まちの産業や歴史・文化などについて学び、理解を深めるための講座・体験学習の実施や、まちづくりを自分事と捉えることをねらいとした「まちづくり町民みらい会議」の開催など、まちへの想いを持って継続して地域づくり活動に取り組む人材の育成を目指します。

また、広尾っ子応援団による「自分大好きプロジェクト」により、子どもたちの自己肯定感を高める取組を推進するとともに、総合型地域スポーツクラブの創設により、幼少期からスポーツに慣れ親しむ環境を整えるなど、まちの将来を担う子どもたちの健やかな成長を支援します。

【主な事業・取組】 ※「太字」はデジタルを活用した取組

1. 「まちづくり町民みらい会議」の開催

○2. 「まちを学ぶ」講座の開催

3. 「広尾町検定」の導入
4. まちへの理解を深める体験学習の実施
5. 広尾っ子応援団「自分大好きプロジェクト」

○6. 総合型地域スポーツクラブの創設

○7. 海洋博物館・郷土文化保存伝習館の魅力向上

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
「まちづくり町民みらい会議」の開催数	2回(R4)	→	延べ15回
「広尾町検定」の導入	- (R4)	→	導入済
総合型地域スポーツクラブの創設	- (R4)	→	創設済

②サンタのまちの新しい観光産業の創出と情報発信の強化

自然などの地域資源を活かした体験メニュー（例：サーフィン、農山漁村体験、潮干狩り、地引き網、釣り、鹿撃ち、山菜採りなど）を開発し、町外から訪れる人が体験型観光を楽しめる体制を整えることにより、新しい観光産業を創出します。

広尾町がサンタランドであることの価値を再認識し、「サンタランドのまち」としてまちぐるみで楽しめるようその魅力に磨きをかけ、観光客増加への取組を強化します。

また、町民参加によるまちの魅力のピーアールを推進します。町民通信員による情報発信や、まちで活躍する団体などを動画を活用してピーアールするなど、観光情報を含むまち全体の情報発信力の強化に努めます。

【主な事業・取組】 ※「太字」はデジタルを活用した取組

1. 体験型観光プログラムの開発
2. サンタランドの魅力向上プロジェクト
3. 「野遊び」による地方創生の推進
4. 観光情報発信力の強化

○5. 町民通信員を活用したSNSによる情報発信

○6. 動画配信によるまちの魅力ピーアール

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
体験観光プログラムの利用者数	1,155 人(R4)	→	延べ 5,000 人
観光協会 SNS のフォロワー数 ※3	14,265 人(R4)	→	20,000 人
町民通信員など町民による SNS への情報発信回数	14 回(R4)	→	36 回

※3 令和4年度末に開設している Facebook、Instagram、X(旧 Twitter)の合計

③多彩な地域交流によるまちの魅力向上

これまで行ってきた、長崎県西海市との姉妹市町交流、芽室町とのうみとやまのふれあい交流、札幌・倶知安・砂川・幕別とのジュニア・ジャズ交流、日高東部3町との広域連携事業など、他地域との交流を継続します。人的交流のみならず、特産品の販売や情報発信など様々な面で連携・交流することで、お互いのまちの魅力発信・向上につなげることをめざします。

都市部や企業からの資金の流れを強化し、魅力あるまちづくりを進めるため、企業版ふるさと納税のピーアールや個人版ふるさと納税に対する返礼品の充実を図り、寄附金をあらゆるまちづくり活動に有効活用することで、まちの活力を高めます。

【主な事業・取組】 ※「太字」はデジタルを活用した取組

1. 長崎県西海市との姉妹市町交流事業推進
2. 芽室町との「うみとやまのふれあい」交流事業推進
3. ジュニアジャズ交流「ジャズの種プロジェクト」推進
4. 日高東部3町との広域連携事業推進

○5. 企業や都市部からの資金の流れの強化

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
企業版ふるさと納税の寄附額(年間)	7,200,000 円 (R3) ※4	→	5,000,000 円
個人版ふるさと納税の寄附額(年間)	95,386,695 円 (R4)	→	100,000,000 円

※4 うち200万円は映画製作支援を目的とする寄附

④誰もが居場所と役割を持ち、安心して楽しく暮らせる地域社会の創出

町内で増加している空き家や空き店舗を活用し、町外・町内問わず様々な人が集う場として有効利用することで、地域社会における交流拠点を創出するとともに、日常生活の中で、町民と移住者がともに居場所と役割を持ち、安心して暮らせるまちづくり（防災・減災、買い物環境・福祉・医療・健康づくり・地域活動など）を推進することにより、誰もが生き生きと生活できる地域社会を創出します。

2050年脱炭素化社会の実現に向けての取組や、行政・経済システム全体でのデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進に向けた取組が求められています。こうした変化に積極的に対応し、産業や生活の質を高めることで、持続可能な魅力ある地域社会を創ります。

交流人口を増加させるためには、都市部との公共交通機関網、高速交通機関との接続が不可欠です。帯広・広尾自動車道（高規格道路）については、豊似・広尾間の新規事業化が決定しましたが、引き続き、早期全線完成に向けた要望活動を行っていきます。また、将来的に持続可能な地域公共交通の確保を進めるとともに、札幌への直通バスである高速ひろおサンタ号の利用促進を図り、維持に努めます。

【主な事業・取組】 ※「太字」はデジタルを活用した取組

1. 空き家や空き店舗、廃校舎を活用した交流拠点の創出
2. 住民主体によるまちづくり活動の推進
3. 町民参加による公園の整備

○4. 地域ポイントカードのデジタル化の推進

○5. 町内会活動におけるデジタル化の推進

○6. 防災減災対策の推進

7. 防災リーダーの育成
8. 福祉・医療・健康・地域活動をつなげる地域包括ケアの確立

○9. 国保病院におけるオンライン診療の導入

10. 豊かな自然を生かした健康づくり活動の推進
11. 高齢者の活躍の場創出
12. 町民の買い物の利便性向上に向けた取組
13. 十勝定住自立圏の推進
14. 脱炭素社会の実現に向けた取組

○15. 地域におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進

○16. マイナンバーカードの利活用の推進

○17. 教育分野における ICT の活用推進

18. 地域公共交通の抜本的改革
19. 帯広・広尾自動車道（高規格道路）の早期全線完成
20. 札幌との都市間交通の維持

【重要業績評価指標(KPI)】

指標	基準値		目標値(R9)
空き家や空き店舗、廃校舎を活用した活動拠点の数	1 か所(R4)	→	延べ 3 か所
防災士、防災マスターの人数	6 人(R4)	→	15 人
高速ひろおサンタ号の年間乗車人数	4,613 人(R4)※5	→	7,000 人

※ 5 新型コロナ禍前の乗車実績：令和元年度 7,051 人

■ 4. 関連するSDGsの目標 ■



第4章 主な事業・取組の整理

政策分野1：海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出

施策① 第一次産業及び商工業の活性化につながる雇用・起業支援

1	新たな栽培漁業の推進
	<p>漁業資源の枯渇への対策として、ウニの餌となるコンブの着生試験を実施するなど、新たな栽培漁業、養殖漁業の導入を図る。また、未利用魚種などの付加価値向上と利用拡大を図るための調査・研究を進める。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
2	家畜ふん尿を再生可能エネルギーとして活用する取組の推進
	<p>企業など外部の専門的人材の力を活用し、産業分野における再生可能エネルギーの有効利用(エネルギーの地産地消)について、調査・研究を進める。</p> <p style="text-align: right;">【農林課】</p>
3	担い手(経営者、従業員)育成確保事業(事業継承)
	<p>経営者がおらず経営の継続が難しい経営体に対し、経営継承に向けた支援(情報集約、マッチング、人材育成など)や、空き店舗を活用した新規創業への支援などを行い、担い手の育成・確保に努める。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
4	多様な新規就農を支援する体制の構築
	<p>研修から就農、定着まで一貫した支援体制を構築し、酪農体験や新規就農に向けた実習を希望している人などを対象に体験・研修・交流事業を行うことで、農業の担い手育成・確保に努めるとともに、農業の振興を図る。</p> <p style="text-align: right;">【農林課】</p>
5	高齢者、障がい者、外国人など多様な人材を労働力として受け入れる取組
	<p>人材が不足する職種について、外国人を含む町外の人材や、高齢者、障がい者など、多様な人材の積極的な雇用に向けて、これらの方々々に求人情報を周知し、労働力として迎え入れる体制を整える。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課・農林課・保健福祉課】</p>
6	地域に根付く、新たな事業、稼げる事業の創出
	<p>起業する意欲のある人を発掘・育成し、地域の課題解決や地域へ貢献できる新しい事業、稼げる事業の起業を促すため、広尾町起業家等支援事業の支援拡充とあわせて、創業塾や「商」学校などの取組を参考にし、経営者の育成を図る取組を推進する。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
7	〇産業分野へのICT, AIなどデジタル技術の導入
	<p>企業など外部の専門的人材の力を活用し、産業分野におけるICTやAIなどデジタル技術の導入に向けた支援や調査・研究を進める。</p> <p style="text-align: right;">【農林課・水産商工観光課】</p>
8	木育事業「町民の森づくり」プロジェクト
	<p>森林の役割や効能、町の林業に関する町民の理解を深めるため、一般町民が参加可能な植樹を継続して実施し、町民のふれあい空間となる「町民の森」を創る。あわせて、親子や若者などをターゲットとした森づくり活動に親しむ体験事業(薪割り体験、木工教室など)を開催する。</p> <p style="text-align: right;">【農林課】</p>

施策② 十勝港の利活用の促進

1	十勝港への企業の誘致
	<p>主に十勝管内で生産される農産品や水産品の輸出・移出を行う企業を誘致し、港の利活用の促進と雇用の創出を図る。また、十勝産の原料を使用した加工品を製造する工場などの立地に向けて、積極的にポートセールスを行う。</p> <p style="text-align: right;">【港湾課・企画課】</p>
2	定期航路開設に向けた取組
	<p>帯広広尾自動車道の全面開通も視野に入れ、農産品や水産品などを移出する定期航路の開設に向けた取組を行い、港の利活用の促進と関連事業も含めた雇用の創出を図る。</p> <p style="text-align: right;">【港湾課】</p>

施策③ 「広尾の食資源、森林資源」開発と伝承

1	広尾の食材を生かした第6次産業の推進
	<p>加工・商品開発・流通販売までを手掛ける第6次産業の起業・設立に向け、良質な生乳を原料とした安心安全な広尾産オリジナル乳製品(チーズ、アイスクリーム)などの開発、加工・販売を支援する。</p> <p style="text-align: right;">【農林課・水産商工観光課】</p>
2	広尾の食文化伝承事業
	<p>広尾町の食文化(魚のさばき方やイクラの作り方、魚を使った漬物などの保存食など)を伝承するための料理講座を定期開催し、広尾ならではの食の魅力を次世代に伝え広める。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課・農林課・健康管理センター】</p>
3	地域ブランド確立に向けた取組
	<p>産業団体が連携・協力し、水産物と農畜産物を原料とした新たな特産品(加工品)や、鮮度の良さをアピールした商品(鮮魚のブランド化など)を開発し、町内での販売や飲食店での提供、ふるさと納税の返礼品など幅広く活用する。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
4	地域材のブランド化による林業の成長産業化
	<p>従来、原木のまま出荷していた町内産の木材の付加価値を高め、地元利用のみならず、都市部や外国への販路拡大も視野に入れて、その流通拡大に努める。</p> <p style="text-align: right;">【農林課】</p>

※太字はデジタルを活用した取組

政策分野2：海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待っています

施策① 多様な移住体験による関係人口拡大

	多様な移住体験の受入体制構築
1	移住を検討する働く世代や都市部の若者などを対象に、移住体験住宅の運営や「ふるさとワーキングホリデー」の実施など、四季折々の北海道・広尾を体感できる、移住体験と産業・自然体験を組み合わせた総合的な受入体制を構築する。 【企画課】
	○移住相談・情報発信の充実
2	移住希望者が気軽に相談を行えるよう、オンラインによる対応やAIチャットボットの活用、空き家情報を一元的に閲覧できる空き家バンクへのシステム導入を検討する。また、オンライン開催も含めた移住イベントへの参加・企画を通じ、本町の魅力・情報発信の充実を図る。 【企画課】
	○ワーケーションなど新しい働き方の推進
3	未利用施設へのコワーキングスペースやICTを活用した無人宿泊施設としての機能追加や、事業者が行う当該施設整備の推進・支援に向け調査・研究を進める。SNSを始めとした様々なメディア展開により、企業・個人を含めた幅広い利用方策を図る。 【企画課】

施策② 都市部との交流を通じたまちの賑わいの創出

	東京都荒川区との「子ども農山漁村」交流事業推進
1	都市部の子どもたちを漁家・農家が民泊で受け入れることにより、関係人口の拡大をめざすと同時に、人的交流を通じて地域住民が地域資源や生業の魅力や魅力を再認識することで、第一次産業の活性化につなげる。また、広尾の自然や食を発信することで、将来的な移住定住の糸口とする。 【企画課】
	東京都荒川区の小中学校への給食用食材提供事業推進
2	広尾産の海産物・農産物を東京の子どもたちへ学校給食として提供することで、ホームステイの事後交流を行うとともに、町の食材を保護者や学校関係者も対象にPRし、広尾ファンを増やす。また、特産品の物販を学校所在地区で行うことで、消費拡大と知名度の向上を図る。 【企画課】

施策③ 地域拠点としての広尾高校改革

	広尾高校におけるコミュニティ・スクールの推進
1	広尾高校におけるコミュニティ・スクール(学校運営協議会)について、小・中学校と同様に広尾っ子応援団本部(地域学校協働本部)と連携した取組を行うことで、地域で広尾高校を応援する体制づくりを推進する。 【教委管理課・教委社会教育課】
	地元企業と広尾高校との結びつきの強化
2	地元のあらゆる仕事について、高校生の理解を深めるための取組(求人懇談会や企業説明会の開催、求人相談窓口の設置など)を官民連携により一体的に行い、地元企業などと広尾高校のパイをつくる。 【教委管理課】

	新しい文化活動の創設
3	若い人がやってみたい活動をリサーチし、外部の人材を活用しながら、町内に指導者がいなくても新たに取り組めるような仕掛けをするとともに、広尾高校においても顧問を置かなくても活動できる新しい文化活動が根付くよう支援する。 【教委社会教育課】
	広尾高校の魅力のピーアール(サポート13)
4	広尾高校の学習環境面の優位性を町ぐるみでアピールし、町内外の中学生やその保護者の理解を深める。 【教委管理課】
	防災教育の充実
5	高校における防災教育の充実を図り、防災リーダーとなる人材を育成する。 【企画課・教委管理課】

※太字はデジタルを活用した取組

政策分野3: サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援

施策① 若者の出会いの場創出

1	出会いの場創出事業の推進
	町内産業団体・経済団体と連携して実施する「出会いの場創出事業」により、未婚の男女を対象とした交流事業などを企画・実施する。 【企画課】
2	「まちづくり」×「婚活」事業
	未婚の男女が、まちづくりについて話し合ったり、実際にまちづくり活動を行ったりする中で信頼関係を築き、その後、交際・婚姻へと発展していくことをねらいとした事業を企画・実施する。 【企画課】

施策② 子育て環境の充実と支援

1	子育て支援ボランティアの組織育成
	一人で子育ての悩みを抱え込んでいる人に対し、隣近所、町内会などの結びつき強化、子育てOG・OBを活用した子育て支援ボランティアの組織育成など、地域ぐるみで子育てを支える体制を整備する。 【保健福祉課子育て支援室】
2	〇育児サポート体制の充実
	支援の総合窓口の設置や支援員による家庭訪問、オンラインを活用した子育て・発達に関する個別相談の実施を検討するなど、育児ケア体制の確立を図る。また、子ども一時預かり所を開設し、子育てのサポート体制の充実を図り、安心して子育てできる環境を整備する。 【保健福祉課子育て支援室・健康管理センター】
3	〇保育園機能の充実
	多様な保育ニーズに応えるため、保育士や支援員等の人材を確保した上で、保育サービスの更なる充実について登園管理や保護者への情報配信におけるICTの活用も検討し、育児負担の軽減を図るとともに、更なる出産に対する意欲の向上につなげる。 【保健福祉課子育て支援室】
4	妊産婦支援の充実
	妊産婦健診等にかかる費用の助成や産後ケア事業、「伴走型の相談支援」と「経済的支援」の一体的な実施などによる、妊娠・出産・子育て期における切れ目のない母子保健サービスの充実を図る。 【健康管理センター】
5	乳幼児等医療費助成事業
	子どもの疾病の早期診断、治療の推進と子育て世帯の負担軽減を図るため、0歳から高校生ままでの医療費を助成する。福祉の増進、支援体制の強化を図ることで、子育て世代の定住促進につなげていく。 【住民課】
6	子育て世帯支援事業
	子どもが出生した家庭に出産祝い金を支給するなど、子育て世代の経済的負担を軽減することで、次代を担う若者の定住促進を図り、活力あるまちづくりにつなげていく。 【保健福祉課子育て支援室】

	ひとり親家族支援事業
7	<p>保育施設の無料化や児童館の設置、また給食費や教育費の無料化なども検討し、ひとり親家族が安心して子育てできる環境を整備する。</p> <p style="text-align: right;">【住民課・保健福祉課子育て支援室】</p>

※太字はデジタルを活用した取組

政策分野4: まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する

施策① 広尾を学び、まちづくりに関わる人材の育成

1	「まちづくり町民みらい会議」の開催
	無作為に抽出した町民を集め、まちづくりについて日頃思っていることなどを話し合う「まちづくり町民みらい会議」を開催する。まちづくりに対する意識を他人事から自分事に変え、参加意識の向上を図る。 <p style="text-align: right;">【企画課】</p>
2	○「まちを学ぶ」講座の開催
	小学生から高齢者までを対象に、まちで活躍する方を講師としたまちを学ぶ講座を開催し、産業や歴史・文化、伝統行事などについての理解を深め、次世代の人材育成につなげる。また、講座の開催は対面形式を基本としつつも、オンライン配信を併用するなど多様な学習機会の提供を進める。 <p style="text-align: right;">【教委社会教育課】</p>
3	「広尾町検定」の導入
	広尾町の歴史や文化、産業などの問題を作り、「広尾町検定」として受検者を募り、広尾町への理解を深めてもらう。小学生から大人まで幅広く受検してもらえよう、問題作成を工夫する。また、検定を受けた町民の組織化を図る。 <p style="text-align: right;">【教委社会教育課】</p>
4	まちへの理解を深める体験学習の実施
	漁業や農業、歴史・文化など、地元住民と直接関わりあいながら、体験を通じて地元への理解を深める学習を推進する。 <p style="text-align: right;">【教委社会教育課・企画課】</p>
5	広尾っ子応援団「自分大好きプロジェクト」
	子どもたちが自分の価値や存在意義を肯定し、未来に向かって夢や希望を持った生涯を過ごせるよう、学校・家庭・地域が連携して取り組みを行う。学校では個人の基礎となる資質・能力(学力)の向上に努め、家庭内では積極的に子どもをほめることのできる環境づくりを実践し、地域では子どもと交流を図るため行事等に参加しやすい環境づくりなどを進め、町全体で子どもたちに温かな眼差しを向ける。 <p style="text-align: right;">【教委社会教育課】</p>
6	○総合型地域スポーツクラブの創設
	地域の指導者を集め、体験会などを通して幼少期から様々な種目のスポーツに触れることができる「総合型地域スポーツクラブ」を設立する。また、講座の開催は対面形式を基本としつつも、オンライン配信を併用するなど多様な学習機会の提供を進める。 <p style="text-align: right;">【教委社会教育課】</p>
7	○海洋博物館・郷土文化保存伝習館の魅力向上
	クイズラリーなどのイベント開催により来館のきっかけづくりを行うことで、来館者数の増加を図る。また、モニター等の電子設備の更新・導入や、資料・収蔵品のデータベース化など、デジタル技術の活用も含めた施設の適正管理により魅力向上を目指す。 <p style="text-align: right;">【教委社会教育課】</p>

施策② サンタのまちの新しい観光産業の創出と情報発信の強化

1	体験型観光プログラムの開発
	<p>交流人口や関係人口の増加を図るため、第一次産業や農山漁村環境など、まちの資源を最大限に生かした宿泊型体験プログラムを創出する。また、実施主体の法人化により継続的に実施する体制を整える。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
2	サンタランドの魅力向上プロジェクト
	<p>「サンタランドのまち」が国内唯一であることの価値を町民が再認識し、まちぐるみで取り組むことができる事業を企画し、町外から来る人も、町民も、子どもも、大人も、みんなが楽しめる「サンタランド」として、その魅力に磨きをかける。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
3	「野遊び」による地方創生の推進
	<p>広尾町の豊富な自然を生かした様々な体験事業を展開し、その場所に行かなければ体験できないこと、食べることができないもの、見ることができない景色や会うことができない人など「また来なくなるまちづくり」を推進することで町内外からの誘客を図り、まちの活性化と町内経済への波及につなげる。</p> <p style="text-align: right;">【企画課・水産商工観光課・農林課・教委社会教育課】</p>
4	観光情報発信力の強化
	<p>町外から来る人がまちの観光情報を手軽に入手することができるよう、パンフレットなどの印刷媒体やインターネット、看板広告、観光案内拠点の創設など、あらゆる方法を駆使して観光情報を発信する。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
5	○町民通信員を活用したSNSによる情報発信
	<p>高校生など若い世代の町民を情報通信員として委嘱し、町民参画による SNS を活用した町のピーアール事項の発信を行うことで、町の情報発信力を強化する。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>
6	○動画配信によるまちの魅力ピーアール
	<p>まちの魅力や文化団体・図書館サークルなどの活動内容を紹介するプロモーション動画を制作し、あらゆる媒体を活用してピーアールを図る。</p> <p style="text-align: right;">【企画課・教委社会教育課】</p>

施策③ 多彩な地域交流によるまちの魅力向上

1	長崎県西海市との姉妹市町交流事業推進
	<p>広尾町と姉妹市町関係にある長崎県西海市との産業、教育、文化など様々な分野における姉妹市町交流を継続する。</p> <p style="text-align: right;">【企画課・教委管理課】</p>
2	芽室町との「うみとやまのふれあい」交流事業推進
	<p>お互いの地域の特色を生かした芽室町との「うみとやまのふれあい交流」を継続する。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>
3	ジュニアジャズ交流「ジャズの種プロジェクト」推進
	<p>「ジャズの種プロジェクト」に参加する、札幌、倶知安、砂川、幕別の各ジュニアジャズスクールと「広尾サンタランド・ジャズスクール」との交流を継続する。</p> <p style="text-align: right;">【教委社会教育課】</p>

4	日高東部3町との広域連携事業推進
	<p>国道による周遊ルートを構成することができる日高東部3町と本町による4町広域連携による観光宣伝事業を実施し、地域外からの観光入込数の増加を図る。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
5	○企業や都市部からの資金の流れの強化
	<p>企業版ふるさと納税・個人版ふるさと納税の寄附を募る活動を強化し、寄附金をあらゆるまちづくり活動に有効活用することで、まちの活力を高める。また、個人版ふるさと納税における電子商品券制度の導入など、返礼品の充実を図るための調査・研究を進める。</p> <p style="text-align: right;">【企画課・水産商工観光課】</p>

施策④ 誰もが居場所と役割を持ち、安心して楽しく暮らせる地域社会の創出

1	空き家や空き店舗、廃校舎を活用した交流拠点の創出
	<p>空き家や空き店舗を活用し、週末だけの飲食店や趣味の集まり、サロンなど町外・町内問わず様々な人が集う場として幅広く有効利用することで、地域社会における交流拠点の創出を図る。廃校舎を活用する「集いの杜プロジェクト」では、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して無料公衆無線 LAN 環境を整備し、林業・木材産業を核とした新たな地域交流拠点をつくる。</p> <p style="text-align: right;">【企画課・住民課・水産商工観光課・農林課・保健福祉課・教育委員会】</p>
2	住民主体によるまちづくり活動の推進
	<p>町民(団体)が主体的に企画提案し運営する事業へ、交付金を助成し側面的に支援することで、町民自らが有する知識や経験を活かし、協働のまちづくりを進めていくとともに、まちづくりに対する参加意識の向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>
3	町民参加による公園の整備
	<p>子どもから高齢者までが気軽に集うことができる公園を整備する。公園の設計(デザイン)には町民参加を募り、アスレチック遊具や噴水、ベンチ、花壇、東屋、防災倉庫などの設置を検討するなど、町民参加による公園づくりを進める。</p> <p style="text-align: right;">【企画課・建設水道課】</p>
4	○地域ポイントカードのデジタル化の推進
	<p>地域ポイントカードについて、スマホアプリ化し商店が端末を保有しなくても地域ポイントを付与できる仕組みづくりを検討する。ポイントカード以外の機能の追加など、魅力向上を図ることで新規取得者を獲得し、町内の経済活性化につなげる。</p> <p style="text-align: right;">【水産商工観光課】</p>
5	○町内会活動におけるデジタル化の推進
	<p>町内会での情報伝達を担う回覧板について、電子回覧板アプリの導入に関する情報提供や費用面での補助制度の創設など、高齢化や広域分散といった課題解決に向け、町内会活動におけるデジタル化の推進に向けた支援を検討する。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>
6	○防災・減災対策の推進
	<p>停電に備え、災害対策本部となる役場庁舎や、病院、高齢者福祉施設に自家発電設備などの非常用電源を確保する。また、防災行政無線と連動したスマホアプリ等の導入による情報発信に対する人口カバー率の向上や、災害対応におけるドローンの活用など、防災・減災対策の推進を図る。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>

7	<p>防災リーダーの育成</p> <p>町民を対象に防災マスターや防災士の資格取得に係る受講料を助成し、防災リーダーとなる人材を育成する。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>
8	<p>福祉・医療・健康・地域活動をつなげる地域包括ケアの確立</p> <p>日頃から地域での声かけやあいさつなど、地域全体で見守り、支え合う体制づくりを推進する。また、医療や介護等に関わる多職種が参加する会議を行うことでネットワークの強化を図り、福祉・医療・健康・地域活動を繋げる地域包括ケアシステムを確立する。</p> <p style="text-align: right;">【地域包括支援センター】</p>
9	<p>○国保病院におけるオンライン診療の導入</p> <p>オンライン診療システムを導入し、各へき地地区の公民館等の公共施設を仮診療所とした診療の実施や、当該システムを活用した訪問診療を実施する。免許返納等による交通弱者をはじめ、患者にとっての通院の負担を軽減し、地域医療の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">【健康管理センター】</p>
10	<p>豊かな自然を生かした健康づくり活動の推進</p> <p>主に町民を対象とした健康づくり活動(ウォーキング、サイクリング、ゴミ拾い、自然ガイド、農山漁村体験など)を行い、豊かな自然を生かしたまちの賑わいの創出と、町民が楽しみながら健康増進を図る取組を推進する。</p> <p style="text-align: right;">【健康管理センター】</p>
11	<p>高齢者の活躍の場創出</p> <p>元気な高齢者の知識や経験などを活かし、地域文化や歴史の伝承、ボランティア活動をはじめとしたまちづくり活動への積極的な参加を支援する。また、スキル(技術)をもった高齢者に対し、高齢者勤労事業部への登録を働きかけるなど活躍の場をつくる。</p> <p style="text-align: right;">【保健福祉課】</p>
12	<p>町民の買い物の利便性向上に向けた取組</p> <p>宅配サービスや買い物代行サービス、バス運行サービスなど、複数のサービスを組み合わせて町民の買い物の利便性を高めるとともに、地域内消費を促進する。</p> <p style="text-align: right;">【地域包括支援センター・保健福祉課】</p>
13	<p>十勝定住自立圏の推進</p> <p>十勝管内1市18町村が十勝のさらなる発展と魅力向上のため、十勝定住自立圏共生ビジョンに基づく広域連携の取組を推進する。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>
14	<p>脱炭素社会の実現に向けた取組</p> <p>2050年までに道内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、地域資源を有効活用した再生エネルギーの導入や地域住民や企業が一丸となった省資源や省エネ、環境保全など脱炭素化社会の実現に向けた取組を行う。</p> <p style="text-align: right;">【企画課・総務課・住民課・農林課】</p>
15	<p>○地域におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進</p> <p>AI・RPA等のデジタル技術の導入やペーパーレス化の促進など、行政事務におけるDXを推進し、各部門の業務における効果や効率性を高め、住民サービスの向上を図る。</p> <p>また、MaaS(マース)やGIGAスクール構想など、まちの実情に応じた様々な分野におけるデジタル技術の活用を検討し、地域におけるDXを推進することで課題解決や魅力向上につなげる。</p> <p style="text-align: right;">【総務課・企画課】</p>

	○マイナンバーカードの利活用の推進
16	<p>マイナンバーカードの空き領域を活用した自治体における独自利用事務や、官民で発行している各種カードの一元管理・併用など、町民の利便性向上や業務の効率化に向け、利活用の推進を検討する。</p> <p style="text-align: right;">【関係各課】</p>
	○教育分野における ICT の活用推進
17	<p>GIGA スクール構想を契機とした1人1台の学習端末を有効利用し、遠隔授業による他校や地域人材を活用した授業支援や、町内外の専門人材を活用したキャリア教育など、学校規模や地理的要因に影響されない学習環境の実現を図る。</p> <p style="text-align: right;">【教委管理課】</p>
	地域公共交通の抜本的改革
18	<p>負担が増大する日勝線や広尾線などの路線バスや地域を循環するバス、町有バスなどを廃止・統合・最適化するため、町民を交えた検討組織を立ち上げて検討し、持続可能な地域交通体制の確立をめざす。</p> <p style="text-align: right;">【企画課・保健福祉課】</p>
	帯広・広尾自動車道(高規格道路)の早期全線完成
19	<p>物流、医療、防災、観光などの分野で欠かすことのできない高規格道路の全面開通について、引き続き関係市町村や関係団体と連携して要請活動を積極的に行い、早期の全線完成を目指す。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>
	札幌との都市間交通の維持
20	<p>本町と札幌市を結ぶ都市間バス「高速ひろおサンタ号」の積極的な利用とピーアール活動を行い、路線の維持を図る。</p> <p style="text-align: right;">【企画課】</p>

※太字はデジタルを活用した取組

**デジタル田園都市国家構想の実現に向けた
第3期 広尾町総合戦略**

〒089-2692

北海道広尾郡広尾町西4条7丁目1番地

広尾町企画課企画防災係

TEL 01558-2-0184 / FAX 01558-2-4933

公式ウェブサイト <https://www.town.hiroo.lg.jp/>
